

帰化雑草ハルザキヤマガラシの東北水田地帯における分布・拡散経路及び繁殖特性

研究のねらい

近年、飼料・農業資材の輸入に伴い、数多くの外来帰化植物が海外から我が国の農耕地に侵入し、農業生産に大きな被害を与えている。海外で小麦やアルファルファ等の減収の原因となっている北方系の帰化雑草ハルザキヤマガラシは、東北地方の転換畑で発生が認められ、分布拡大による問題の広域化が懸念されていることから、東北の水田地帯における分布・拡散経路及び繁殖特性を調査し、発生の実態を明らかにする。

研究の成果

ハルザキヤマガラシは東北全県に広く分布し、定着している（図1）。秋田県仙北地域では河川周辺及び用排水路周辺の水田畦畔・道路端に生育することが多く（図2）、用水整備などで畦畔に上げられた用排水路底の土から発生しているのが確認される。種子の3割程度は2年間の水中貯蔵後も発芽力を有し、河川や用排水路はハルザキヤマガラシの重要な拡散経路の一つである。

畦畔におけるハルザキヤマガラシ（図3）は、株基部及び根部からの再生による個体の割合が高い。生存率は、草刈り回数が少ない場合に低く、花軸を早期に刈り取った場合に高い傾向を示す。一方、小麦畑においては、根断片が土中に埋没した条件下や土壌水分の高い条件下では腐敗するため、ほとんどが種子からの発生である（表1）。

このようにハルザキヤマガラシは、耕起が行われる転換畑小麦作では種子繁殖、不耕起で草刈りが頻繁に行われる畦畔では栄養繁殖を主体とした生活史を送り、多様な環境条件に適応している。

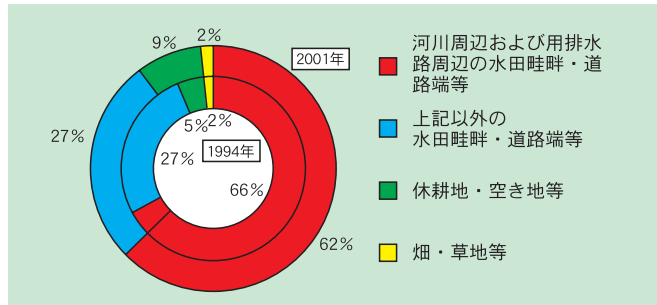
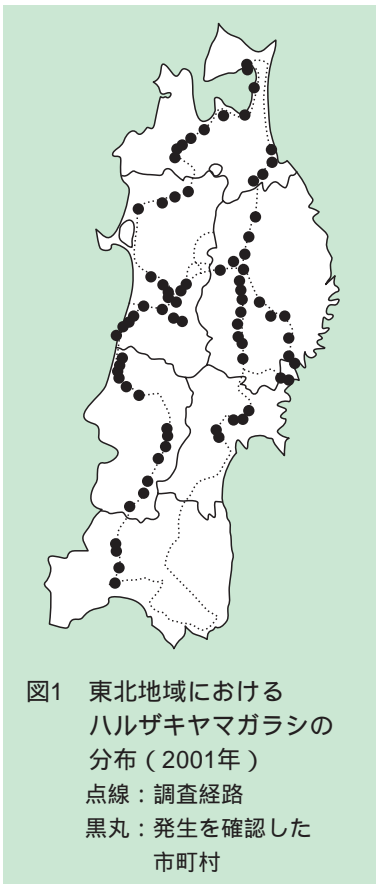


図1 秋田県仙北地域におけるハルザキヤマガラシの成育場所



図3 畦畔に発生したハルザキヤマガラシ

表1 畦畔と小麦畑におけるハルザキヤマガラシの繁殖様式

生育場所	種子繁殖	栄養繁殖	
		--	% --
用水路端畦畔 (n=97)	35.1	64.9	
小麦畑 (n=261)	97.7	2.3	

nは個体数を示す。繁殖様式は発生個体の子葉および刈り株等残渣の有無を確認し、識別した。

成果の利活用

ハルザキヤマガラシの拡散防止と制御技術の開発に有益な情報である。

成果の発表年 平成13年度

(問い合わせ先：水田利用部 雑草制御研究室 0187-66-2771)